

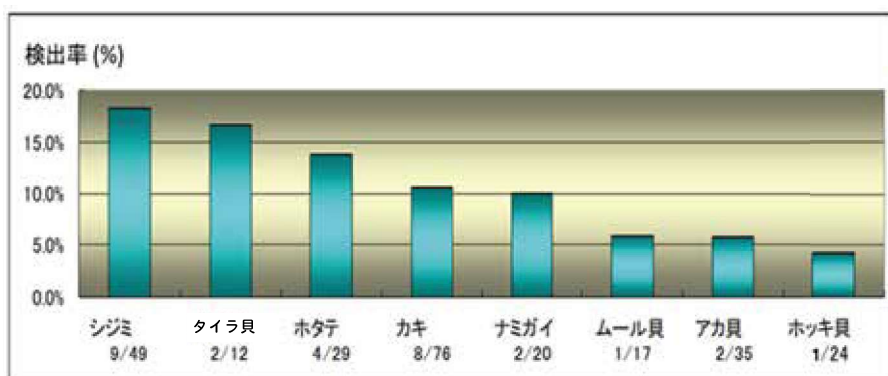
Contents

ノロウイルスの季節です／① ポストコロナ～遺伝子検査機器の今～／②
 医'sアシスト・ウィズウェルネスのご案内／③ 細菌検査統計報告、ちょっと
 一言／④

ノロウイルスの季節です

ノロウイルスはヒトに対して嘔吐、下痢などの急性胃腸炎症状を起しますが、その多くは数日の経過で自然に回復します。季節的には秋口から春先に発症者が多くなる冬型の胃腸炎、食中毒の原因ウイルスとして知られています。

当検査センターでは、
 抗原検査ほか高感度PCRも
 受託可能です！

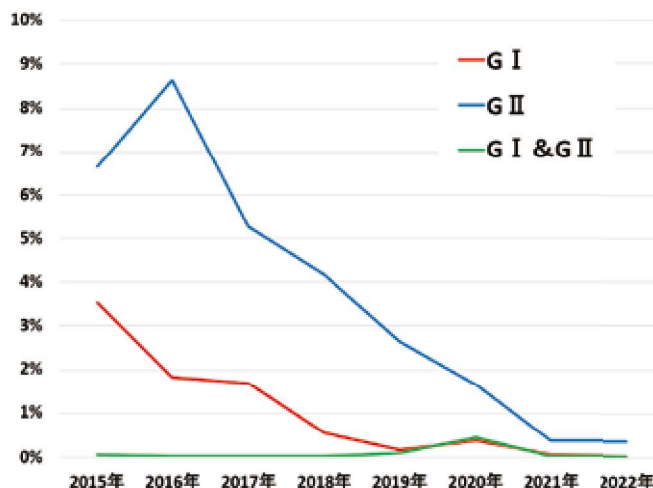


ノロウイルスは牡蠣以外の二枚貝からも検出されます。ノロウイルスが濃縮される消化器を生で食べるのは牡蠣だけなので、他に比べ食中毒の原因となることが多いと考えられています。

85℃ 90秒で不活化
 =死滅します。

牡蠣ノロウイルス検出率 遺伝子型 別年別統計

	病原体	発症必要数
少量で感染	ノロウイルス	10～100/ヒト
	腸管出血性大腸菌	10～100/ヒト
	赤痢菌	10～100万/ヒト
	カンピロバクター	100～1000/ヒト
大量摂取で感染	サルモネラ菌 (チフス菌を除く)	10万～10億/ヒト
	腸炎ビブリオ	1万～10億/ヒト
	ウェルシュ菌	100万～100億/ヒト
	セレウス菌	100万～1000億/ヒト



少量でも感染するウイルスでヒトに感染するのはGI、GIIおよびGIVの3つの遺伝子群のウイルスで、ヒトの感染症や食中毒から検出されるノロウイルスの大半はGIとGIIになります。

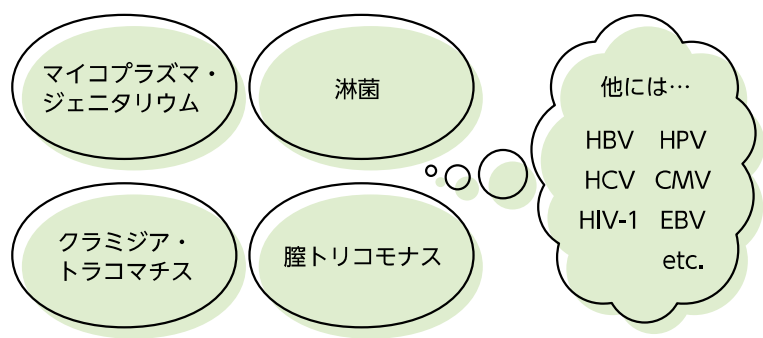
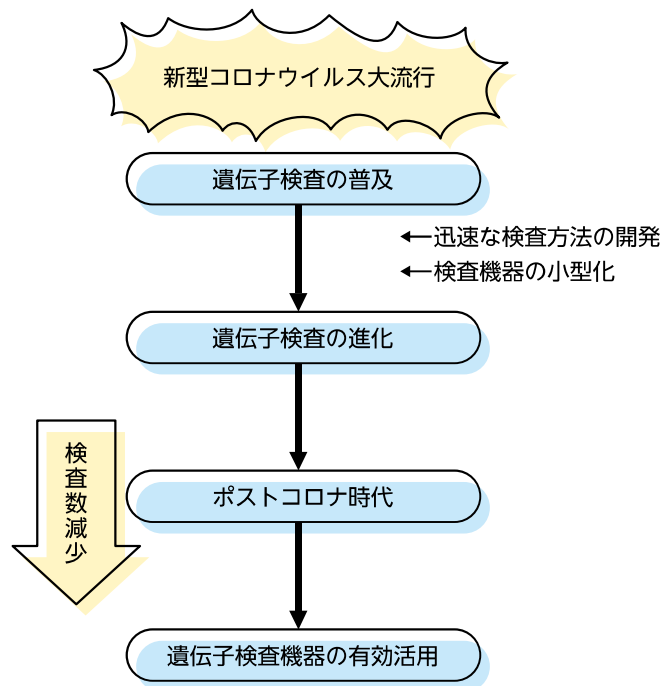
ポストコロナ

～ 遺伝子検査機器の今～

日本の遺伝子検査の普及は、世界と比較して遅れている状況でした。しかし、2020年の新型コロナウイルスの大流行により、遺伝子検査の必要性が求められ、普及が加速し、その進化もめまぐるしいものとなりました。多くの医療施設に遺伝子検査機器が設置され、当検査センターも新型コロナウイルスの流行に伴い、全自動遺伝子検査装置を導入いたしました。精度もよく、全自動で測定可能な機器は、新型コロナウイルス検査において大いに活躍しました。

その検査機器の今は・・・

当検査センターでは、徐々に新型コロナウイルスの検査数が落ち着いていく中、導入した遺伝子検査機器の有効活用が重要な課題となってきました。培養検査で検出が困難な微生物には遺伝子検査が有効であり、その中でも性感染症に着目し、淋菌およびクラミジア・トラコマチスをそれまでの老朽化していた機器から新しい機器に切り替え、検体数増加対応と効率化を実現しました。さらに、保険適用された脛トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出検査も導入し、受託を開始いたしました。現在、新型コロナウイルス検査と同じ遺伝子検査装置で検査を行っています。感染症遺伝子検査の充実に、検査機器が活用されています。



導入予定の新しいソリューションをご紹介します。

「業務効率化」と「患者さんとのつながり」をアシストする



医療機関で導入するソフト(有償)

患者さんがスマホ・タブレット等で使用する
医'sアシストと連携する健康管理アプリ(無料)

医'sアシストは予約・受付管理からオンライン問診票、診察支援などクリニックのあらゆる業務を効率化するためのクリニック向けDXサービスです。

現場医師監修のもと診療に関わる医師・受付・患者さん全員の体験価値を高めるためのサービス設計が施されており業務効率改善だけでなく患者さんの予防医療にもつながることを目指しサービスの開発・提供を行っています。

また、ウィズウェルネス(健康管理アプリ)を通じて診察結果や検査結果など各種データを連携することで患者さんとクリニックをつなぐ新しい医療コミュニケーションを実現します。

連携利用でつながり・業務効率化と再診率のアップ

クリニック	患者さん
医'sアシスト 業務支援&患者定着化ソリューション	ウィズウェルネス 健康管理アプリ(無料)

- 予約、受付、問診、診察支援、検査結果通知など全業務を効率化
- オンライン問診票や検査結果の通知をスムーズに受け取ることで患者さんの満足度を向上
- 患者さんとのコミュニケーション

<https://www.e-s-assist.com/>

医療と患者さんがつながる世界観を実現

クリニックと患者さんのつながりを実現する世界観

クリニック側: 予約管理、受付管理、問診票管理、診察支援、検査結果通知

患者さん側: 予約管理、問診票入力、検査結果確認、健康管理

連携による効果: 業務効率化、患者定着化、予防医療の実現

「医'sアシスト」は「業務効率化」と「患者さんとのつながり」をいつまでも継続させるスマートサイクル

1. 予約・受付の効率化
2. 問診票の効率化
3. 診察支援の効率化
4. 検査結果の効率化
5. 患者さんとのつながり

スマートサイクルのメリット: 業務効率化、患者定着化、予防医療の実現

一体化させて実現できる体験価値

「患者定着化ソリューション」

タッチポイント(顧客接点)増加

予約管理、問診票管理、診察支援、検査結果通知

患者さんとのつながりを実現する世界観

お問い合わせにつきましては、営業担当に連絡下さい。また、機能も豊富にございますので、ぜひホームページもご参照下さい。

ホームページアドレス <https://pr.e-s-assist.com/>

細菌検査統計報告

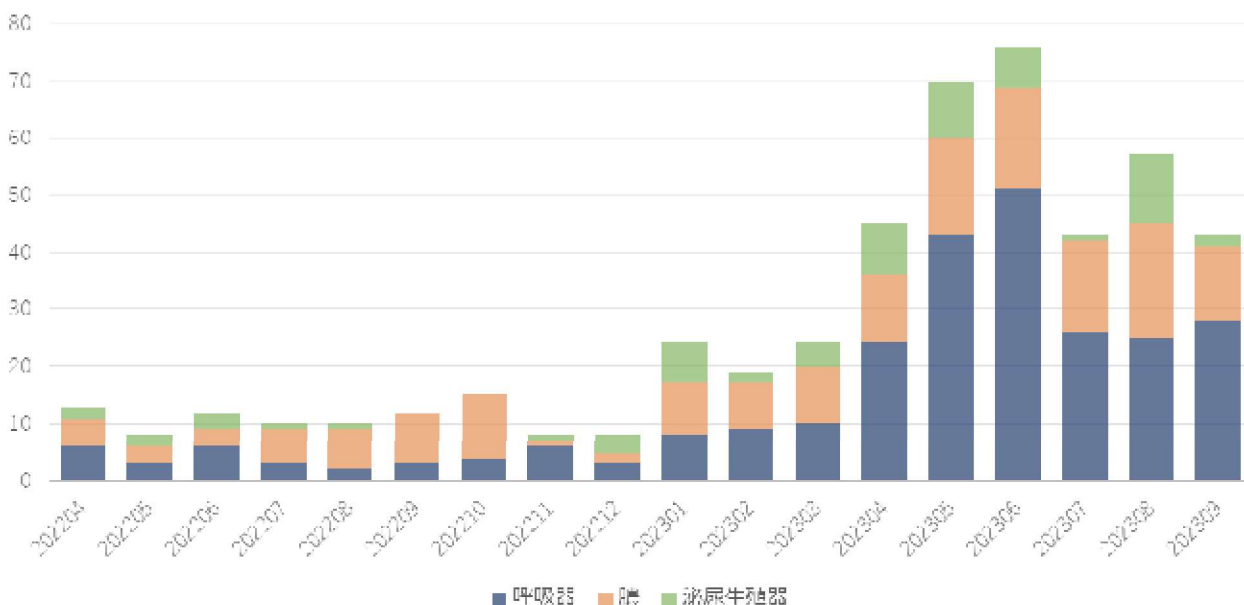
(A群溶連菌検出状況①)

当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況を一部取り上げてご報告いたします。その他の検査材料の細菌検出状況、薬剤感受性情報、薬剤耐性菌検出状況、腸管病原菌検出状況は、当検査センターホームページに掲載しています。

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

A群溶連菌 (A群溶血性レンサ球菌 | Streptococcus pyogenes) は上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌となるグラム陽性連鎖球菌です。2022年4月～2023年9月に当センターから検出されたA群溶連菌の検出状況を下記に示します。

A群溶連菌検出状況



昨年のA群溶連菌検出状況は月20件未満でしたが、今年初頭からすべての検査材料において増加傾向となりました。昨年末は膿検体からの検出が多く、2023年4月以降は呼吸器検体からの検出が多くなっています。詳細について次号に続きます。



第100回箱根駅伝

箱根駅伝は1920年に開始された、毎年1月2日と1月3日の2日間で開催する関東地方の大学駅伝競技会のため、関東学生陸上競技連盟に所属する大学のみ出場資格が与えられますが、2024年1月に開催される箱根駅伝は100回目の記念大会となるため、全国の大学に出場資格が与えられました。

しかし、箱根駅伝の本戦に出場するには、10月に開催される厳しい予選会を勝ちぬかなくてはなりません。実際の結果は全て関東の大学が本戦出場となりました。

地方の大学でどこまで通用するか期待もありましたが、力の差は大きく感じました。

それでも、新しい事、難しい事にチャレンジする精神は見習いたいものです。

2024年の箱根駅伝が待ち遠しいです。

営業課 古賀 史浩

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号

TEL 092-852-1506 FAX 092-852-1511

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

E-mail : fma@city.fukuoka.med.or.jp

編集委員 田川 恭平 東田 和子 杉本 清美 田中 進一 高下 誠司 井手 明宏